

伊奈町役場新庁舎整備事業

基本設計説明書

< 概要版 >

令和7年3月

佐藤工業株式会社
株式会社 佐藤総合計画

< 目次 >

1. 設計コンセプト	・・・01
2. 計画概要・案内図	・・・02
3. 配置計画	・・・03
4. 全体構成・ゾーニング計画	・・・04
5. 平面計画	・・・05-06
6. 防災・防犯拠点機能を備えた庁舎計画	・・・07
7. 環境に配慮した庁舎計画	・・・07
8. 施設イメージ	・・・08

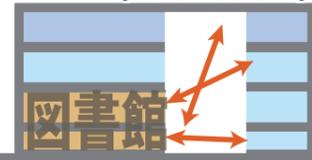
まちへひらき、「伊奈の結び目」となる庁舎

—伊奈氏が築き発展してきた「自然と共にある営みの風景」と「町民の活動」を”結ぶ”新たな拠点—



「知の結び目」を生み出す基本的な構成

STEP1(基本計画案)



吹き抜けを介した視覚的なコミュニケーション

STEP2

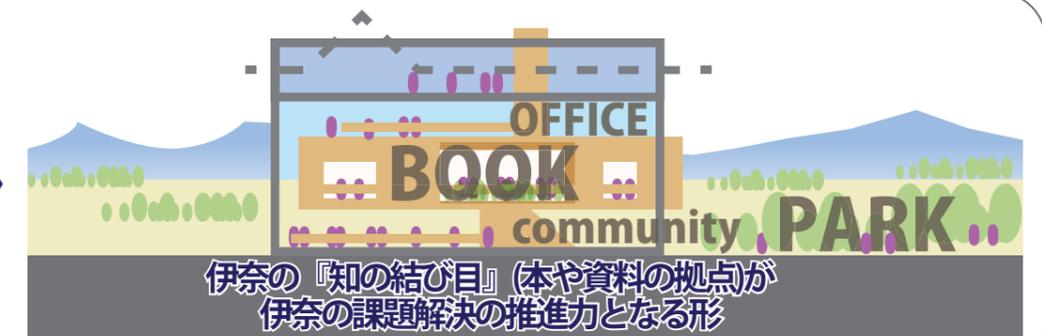


本や資料を町民サービスと積極的に関わり合うように発展

STEP3



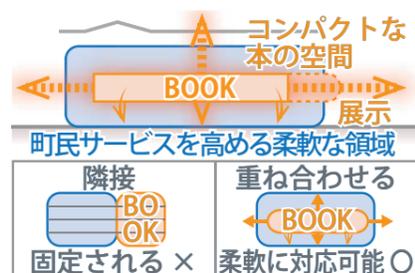
本や資料を中心とした課題解決、まちづくり支援、ひとづくり



伊奈の『知の結び目』(本や資料の拠点)が伊奈の課題解決の推進力となる形

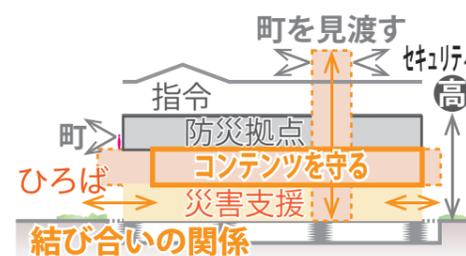
基本理念①②③に対する設計方針

①町民サービスの向上を目指した機能性・効率性の高い庁舎



庁舎と図書館の「重なり合い」が町民サービスを向上

②町民を守る防災・防犯拠点機能を備えた庁舎



交流・防災に寄与する庁舎と広場の「結び合い」による一体化

③町民に開かれ、環境に配慮した庁舎



交流を全方位に発信する「ひらかれた庁舎」

1. これまでの経緯

- 平成 24 年度：耐震診断の結果、北庁舎の耐震性能不足と判明
- 平成 26 年度：耐震補強工事を検討するも、耐震化による事務スペースの狭小化や財政上の問題から、継続して検討を実施
- 平成 29 年度：「町民が求める役場庁舎のあり方について」伊奈町行財政改革推進会議に諮問
- 平成 30 年度：「町民が求める役場庁舎のあり方について」伊奈町行財政改革推進会議からの答申
- 令和元年度：伊奈町行財政改革推進会議からの答申を踏まえ、「伊奈町役場庁舎のあり方」を検討
- 令和 3 年度：伊奈町役場新庁舎整備基本構想・基本計画書の策定
- 令和 5 年度：建設費や物価高騰の影響を鑑みて、複合化候補施設及び施設全体の規模を見直した伊奈町役場新庁舎整備基本構想・基本計画書（追補版）を策定
- 令和 6 年度：設計施工者を選定し、基本設計に着手・町民ワークショップ開催

2. 計画敷地概要

- 都市計画区域：都市計画区域内（市街化区域）
- 用途地域：第二種住居地域
- 建蔽率・容積率：建蔽率 60%・容積率 200%
- 日影規制：測定高さ 4m・規制時間 4 時間, 2.5 時間
- 防火地域：指定なし（22 条区域）
- 高度地区・地区等：伊奈町中部土地区画整理促進区域, 伊奈町中部特定土地区画整備事業, 伊奈町中部地区地区計画区域
- 敷地面積：11,048 ㎡
- 道路幅員：東側 6m・西側 12m・南側 12m・北側 6m

3. 建築概要

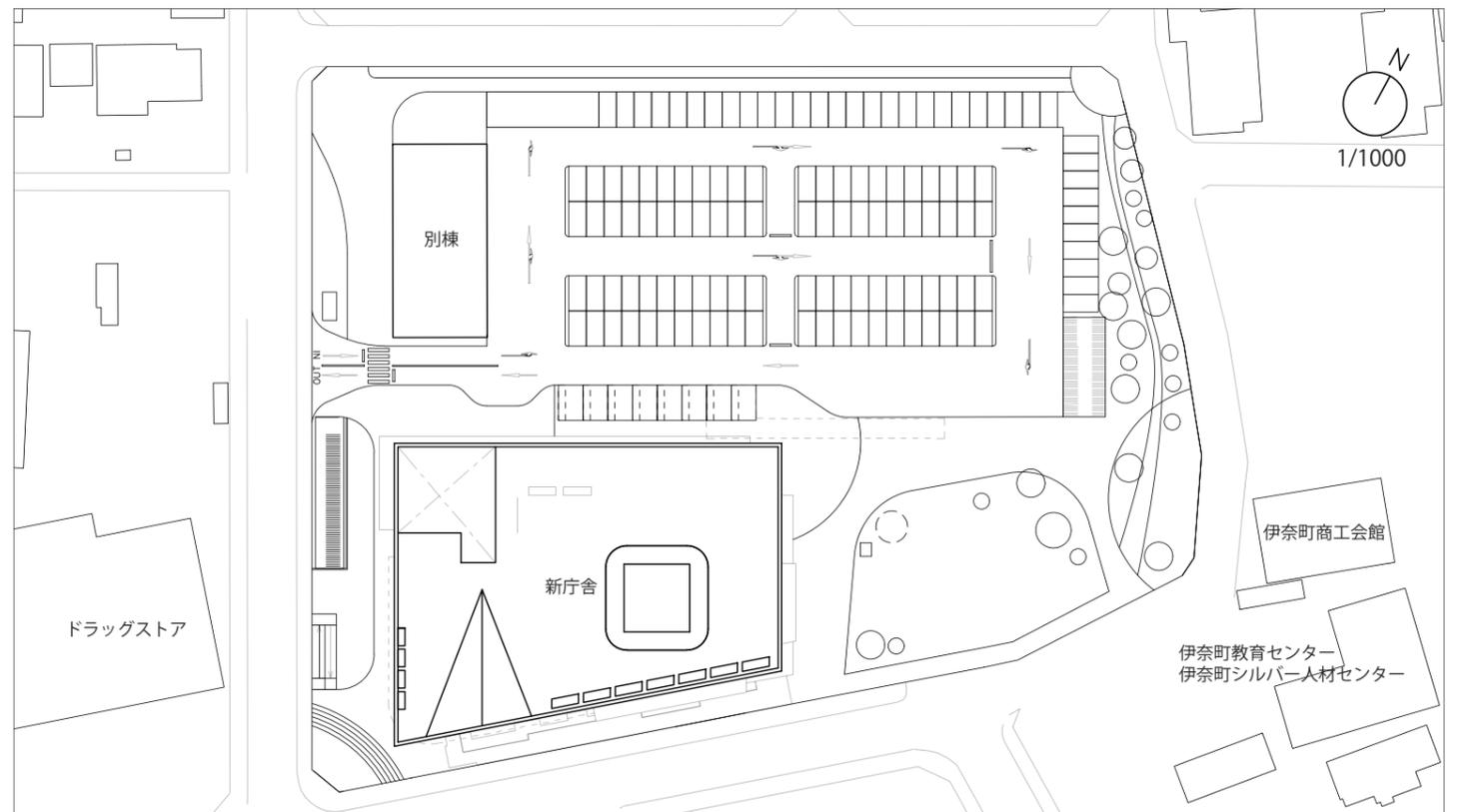
- 業務名：伊奈町役場新庁舎整備事業
- 建築主：伊奈町
- 建築場所：埼玉県北足立郡伊奈町中央四丁目 355 番地他 11 筆
- 主用途：庁舎・図書館
- 工事種別：新築

	新庁舎	別棟
構造の種別	上部S造、下部RC造	上部S造、基礎RC造
階数	地上4階	地上2階
耐火種別	準耐火建築物	準耐火建築物
建物高さ	22.2m	8.3m
建築面積	2,645.950㎡(新庁舎：2,270.590㎡)	別棟：375.360㎡)
延べ床面積	8,403.944㎡(新庁舎：7,653.224㎡)	別棟：750.720㎡)
容積対象床面積	8,129.811㎡(新庁舎：7,511.678㎡)	別棟：618.134㎡)
建蔽率	23.95%	
容積率	73.58%	

4. 付近見取図



5. 配置案内図



6. 事業スケジュール（予定）

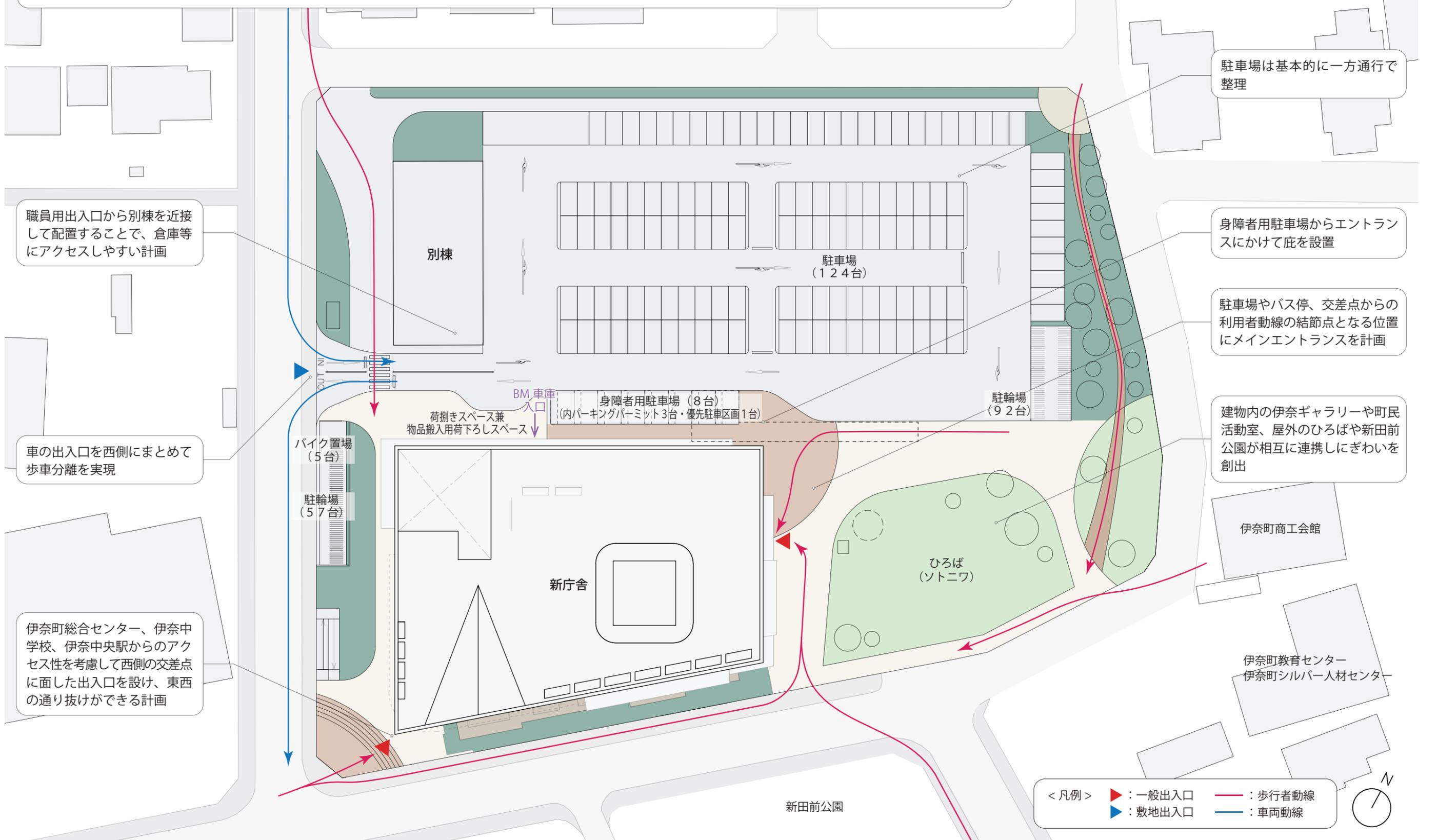
	令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度											
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
全体工程	契約締結			準備工事(9カ月)準備・先行解体			新庁舎着手			新庁舎・別棟引渡し			新庁舎開庁(予定)			引越し			【Ⅱ期工事】(8カ月)既存棟解体・外構工事			竣工		
	設計期間(15.5ヶ月)						【Ⅰ期工事】(19.5ヶ月)新庁舎・別棟建設						【Ⅱ期工事】(8カ月)既存棟解体・外構工事											

※各図は基本設計段階のイメージ図です。今後の検討の中で変更となる可能性があります。

3. 配置計画

配置計画

新庁舎は敷地の南西に配置し、新庁舎の南東には大きな広場（ソトニワ）、北側は駐車場を整備します。
 新たな町民サービスの中心施設としてにぎわいの創出と周辺住宅地への配慮を両立しつつ、周囲の公共機能を結び、全方位からのアクセスが可能な配置構成とします。

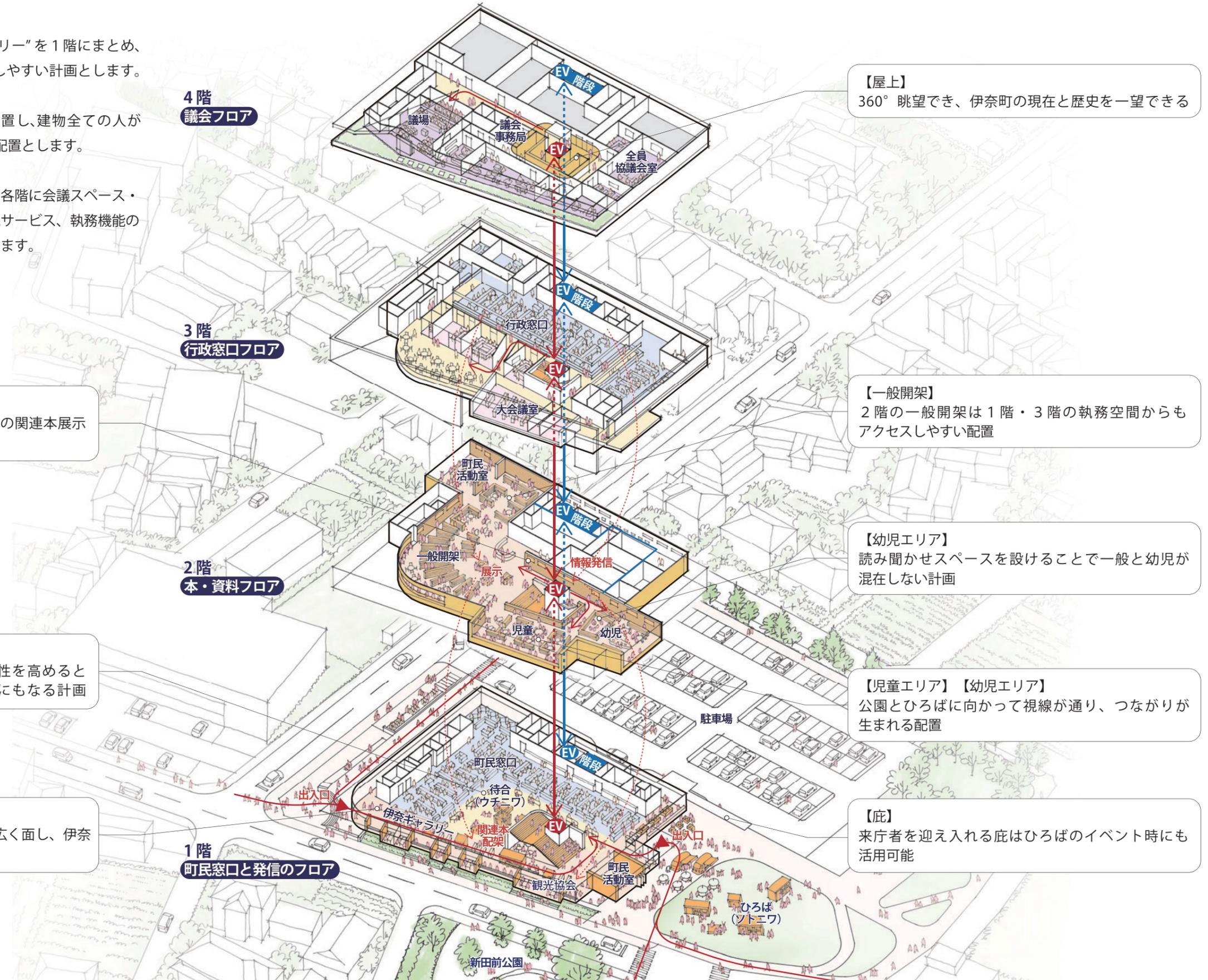


※各図は基本設計段階のイメージ図です。今後の検討の中で変更となる可能性があります。

4. 全体構成・ゾーニング計画

関連する機能をワンフロアに集約配置

- ・町民窓口と賑わいを生み出す "伊奈ギャラリー" を1階にまとめ、駐車場・公共交通機関・ひろばからアクセスしやすい計画とします。
- ・建物の中心（2階）に本や資料の拠点を配置し、建物全ての人が利用しやすく、1階の窓口業務と連携可能な配置とします。
- ・関連性の高い課や機能を階毎にまとめつつ、各階に会議スペース・リフレッシュコーナーを設けることで、町民サービス、執務機能の合理性と職員の快適性を共に高める計画とします。



【屋上】
360° 眺望でき、伊奈町の現在と歴史を一望できる

4階
議会フロア

3階
行政窓口フロア

2階
本・資料フロア

1階
町民窓口と発信のフロア

【本や資料の拠点】
1・3階の窓口フロアと連携し、窓口の関連本展示など様々なかたちで情報発信が可能

【一般開架】
2階の一般開架は1階・3階の執務空間からもアクセスしやすい配置

【待合（ウチニワ）】
建物中心部に配置し、窓口から視認性を高めるとともに伊奈ギャラリーと窓口の接点にもなる計画

【幼児エリア】
読み聞かせスペースを設けることで一般と幼児が混在しない計画

【伊奈ギャラリー】
交差点や公園、ひろば（ソトニワ）に広く面し、伊奈町の魅力を発信しやすい配置

【児童エリア】 【幼児エリア】
公園とひろばに向かって視線が通り、つながりが生まれる配置

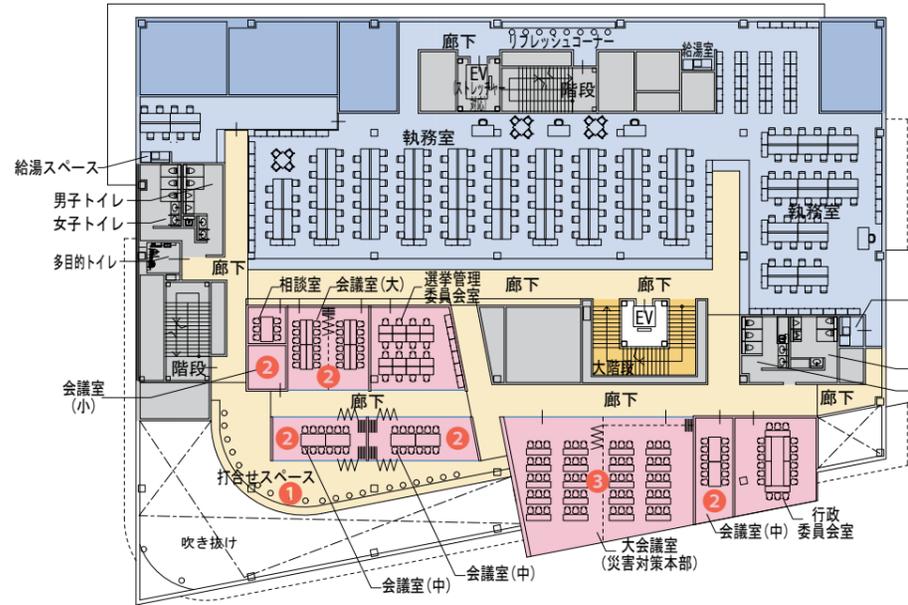
【庇】
来庁者を迎え入れる庇はひろばのイベント時にも活用可能

※各図は基本設計段階のイメージ図です。今後の検討の中で変更となる可能性があります。

各階平面計画

深めあいのフロア（3階）

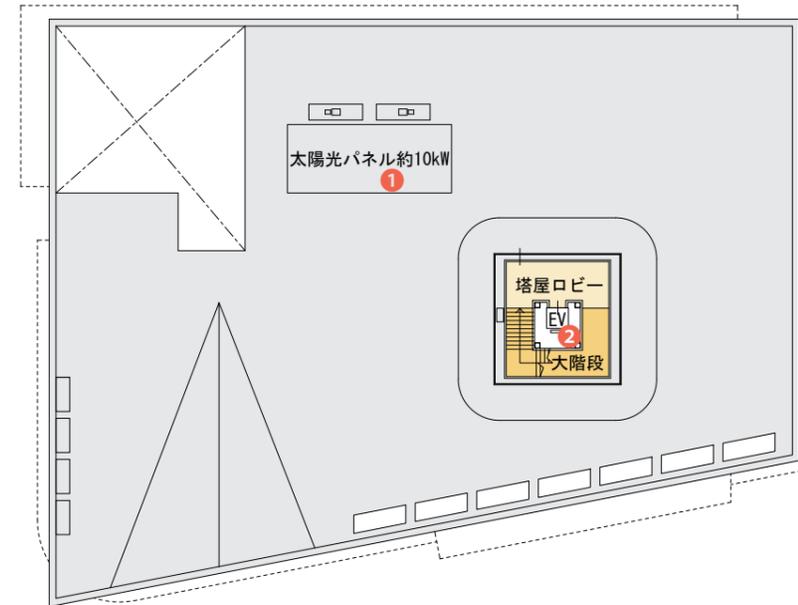
- ①行政窓口を3階に集約し、各課が連携しやすく、機能的・効率的な配置とします。
- ②災害対策本部機能を集約することで、災害時にも迅速な対応が可能な計画とします。
- ③リフレッシュコーナーや会議スペースを設けることで、職員が快適に業務を行える計画とします。



- ① 打ち合わせスペース
主に職員がランチや打ち合わせができるカウンターを開放的な吹き抜けに面して配置
- ② 会議室
会議室は3階に集約配置し利用者がアクセスしやすいよう計画。
- ③ 大会議室（災害対策本部）
大会議室は町民も利用しやすいよう利用者用EV・階段付近に配置。可動間仕切りにより利用人数に対応した多様な使い方が可能。災害時に災害対策本部機能になった際は屋外の見通しを確保出来る配置

ふれあいのフロア（屋上）・別棟

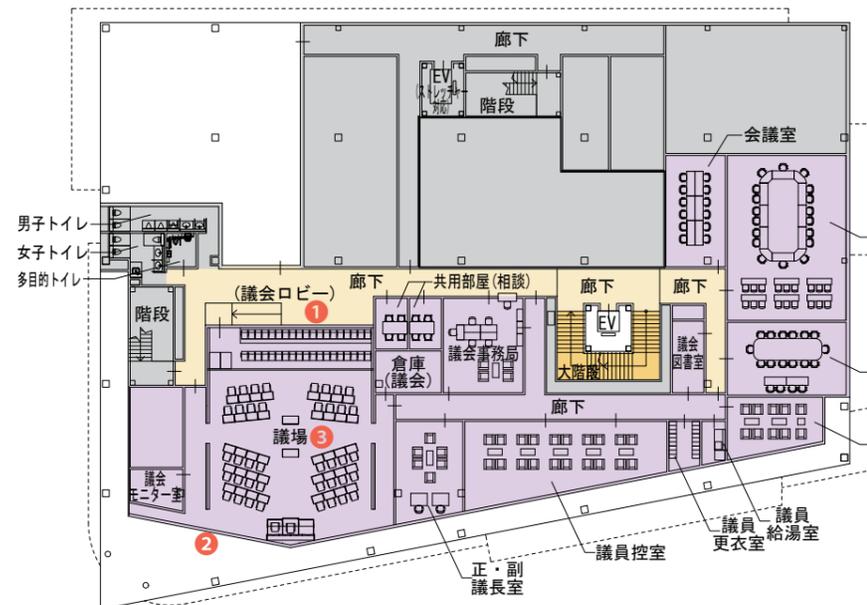
- ①基本的に陸屋根とすることで、メンテナンスに配慮した効率的・経済的な計画とします。
- ②伊奈町を360°眺望できるように、展望デッキを計画します。



- ① 屋根
太陽光パネルを設置しやすい陸屋根で計画
- ② EV
塔屋階にはEVでアクセス可能とし、EVを時間管理にすることで、休館日や休日でも屋上にアクセス可能な計画

わかりあいのフロア（4階）

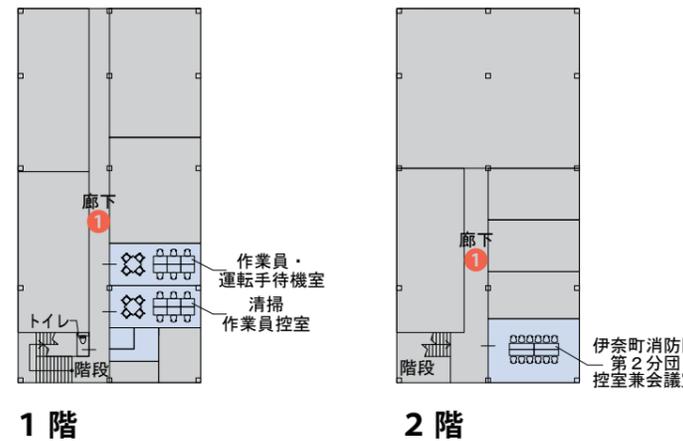
- ①議会関連諸室を4階に集約し、効率的な運用が可能な配置とします。
- ②来庁者がわかりやすい位置にロビー・傍聴席を設けるなど、町民に開かれた議会を計画します。
- ③南側に議会諸室をまとめることで、屋外からも議場の様子を感じとれる配置とします。



- ① 議会ロビー
メインの階段からわかりやすい位置にロビー空間を配置することで、来庁者が利用者用EV・階段から議会事務局、議場へ訪れやすくする計画
- ② 議場屋根
議場の屋根部分の梁に木材を使用（埼玉県横瀬町産の木材（製材）の使用を検討）
- ③ 議場
議員席・理事者側席は移動可能な家具で設え、議員定数の変化や災害時にも柔軟に対応できる。議場は事務局・議員・傍聴者それぞれの動線が交差しない計画

別棟（1・2階）

- ①別棟は新庁舎棟の北側に配置し、職員の行き来がしやすい計画です。



- ① 廊下
中央に廊下を配置することによってセキュリティがしやすい効率的な計画

<凡例>

■ 一般エリア	■ 職員エリア	■ 倉庫・機械室等
■ 会議室	■ 議会エリア	+

+

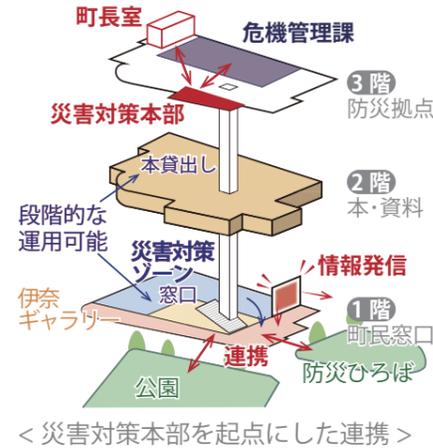


町の賑わいの拠点が防災・防犯の要となる庁舎

まちの中心にある「防災拠点庁舎 = まちの防災機能の中核」となる役割として、敷地全体を明快な災害支援ゾーニングとすることで、周辺を含めた防災ネットワークを再構築します。これにより、発災から復旧に至るまで持続的な災害支援が可能です。

①街の回遊性を向上させる配置構成が日常から災害時へスムーズに機能転換を可能とする

- ・災害時は、物資搬入支援拠点をメインとした救援物資受入れ、分配、災害支援関係機関を北側に集約し、災害対策ゾーンとして機能します。
- ・1階ひろばを中心に「支援」をメインとした救援物資配給、炊き出しを行い、防災ひろば（待機エリア）として周辺住民へ開放が可能です。
- ・災害対策本部機能と関連課・執行部を3階に集約することで、連携しやすく機動力の高い防災活動を展開します。

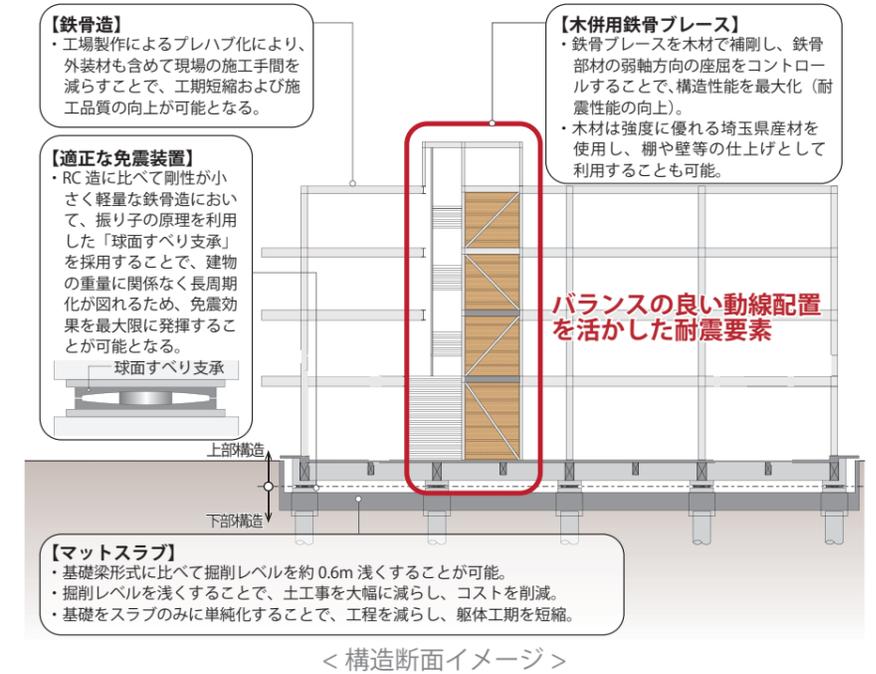


②安全・安心・業務継続力を発揮する防災拠点

- ・バランスのとれた縦動線配置を活かし、耐震要素を動線部分に集約することで、機能転換しやすい柔軟な空間を実現し、施工性・短い工程に繋がる鉄骨主体(免震)の合理的な架構とします。

③利便性の高いフロアの構成が情報資産を確実に守る

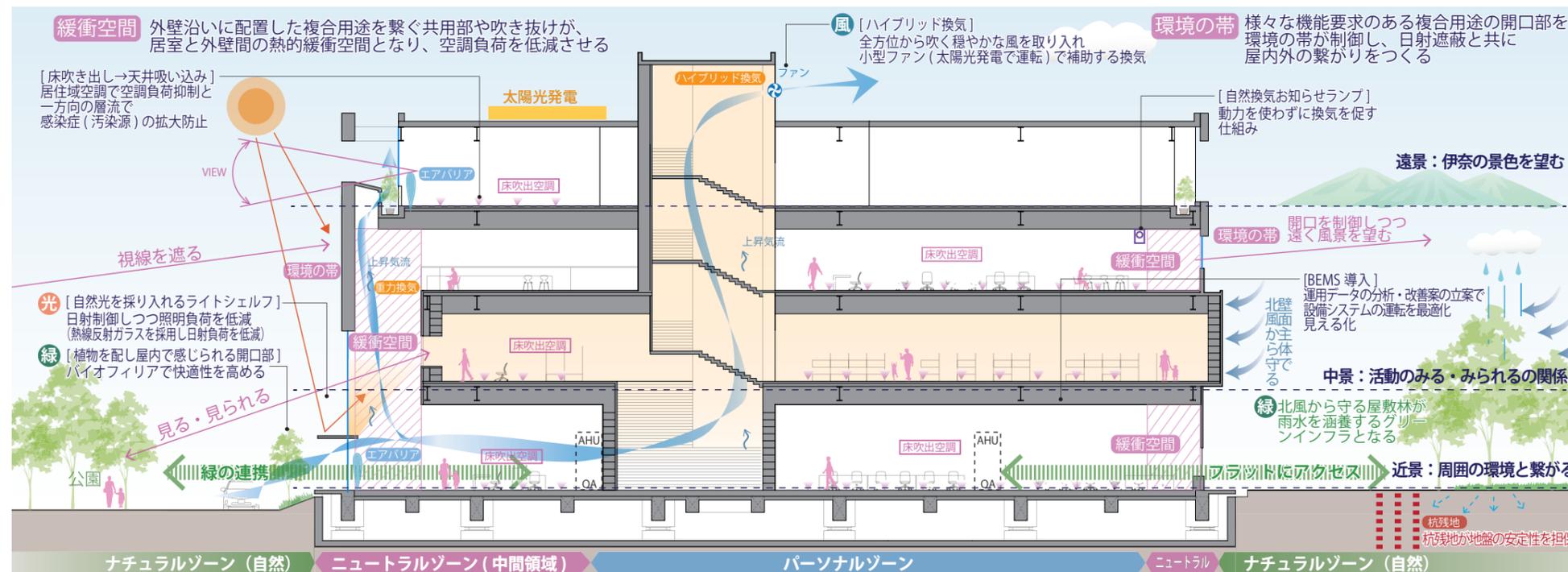
- ・主たる図書館機能を2階に集約することで、閉庁時間・閉館時間が異なる複合化された機能においても容易にセキュリティ区画が形成しやすい計画です。
- ・町民と職員の動線の交差を無くし、町民の大切な情報の外部漏洩を防ぎます。



7. 環境に配慮した庁舎計画

伊奈の風土、機能融合を活かした快適な環境親和型庁舎

伊奈町の風土・気候特性がもたらす、「豊かな環境資源」。新庁舎の特徴である、「機能の融合のカタチ」がそのまま、省エネルギー化・CO2削減・快適な環境に直結する仕組みで、人の営みが重なり合あう、環境に呼応する新庁舎をつくります。



< 災環境親和型庁舎断面イメージ >

①イニシャルコストの縮減をランニングコストの縮減に繋げる

- ・イニシャルコストを抑えるため、本計画の特徴である機能の複合化やこの敷地特有の環境(地盤や日射)を活かした建築計画・環境設備の提案を行います。

②ZEB Ready,CASBEE-WO(Sランク)を実現する機能融合の仕組み

- ・ZEB・CASBEEの異なる評価手法を理解し、各評価を効果的に整合させ、ZEB Ready,CASBEEウェルネスオフィスSを実現します。

③伊奈の風土を活かしウェルネスから脱炭素社会へ繋ぐ

- ・風から守る屋敷林の手法を外構計画に採用し、緑豊かな環境を提供しCO2削減に寄与する仕組みです。(4253kgCO2/m²・年間)

④施工・運用の各フェーズで脱炭素社会への取り組みを実現

- ・現場内にソーラー発電システムを設置し、仮設事務所の照明電源を太陽光発電で補います。0.46kW×8枚の容量を設置することでCO2削減量に換算して年間1561.5kg(杉の木換算で111本)を削減することができます。

※各図は基本設計段階のイメージ図です。今後の検討の中で変更となる可能性があります。



※各図は基本設計段階のイメージ図です。今後の検討の中で変更となる可能性があります。